

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

1. 事業の実施方針

(1) 鑑賞～創造発信

芸術文化の振興～継続的な共同制作の実施へ

海外の一流劇場オペラ・バレエ公演等による鑑賞機会の提供や、舞台芸術の振興に繋がる新しく次世代にも魅力を伝える多様な事業を提案します。

また、文化施設を牽引する「舞台芸術の殿堂」の役割として、オペラの共同制作は地方の文化施設から常に求められています。オリンピックに華を飾る「五大陸オペラ(仮称)」は、地方の複数の文化施設や実演家団体と連携した共同制作として実現します。

この機会をきっかけとして、培ったノウハウを継承しながら、オリンピックのレガシーとして大ホール規模のオペラや様々な舞台芸術を継続的に共同制作し、全国規模で展開し、芸術文化の振興に寄与してまいります。

(2) 教育普及

あらゆる人々の鑑賞、参加、交流機会の創出～社会的課題への取組

0歳児、児童、若者から高齢者、障害者など、世代や環境が異なるあらゆる人々に向けた多様なプログラムを展開し、音楽芸術をツールとした鑑賞、参加、交流する機会を創出していきます。

(3) 人材育成

若手の活躍機会の創出

優れた若い人材の学ぶ機会や活躍する機会を掴む事業を展開します。

若手が活躍する鑑賞型・体験型の事業を幅広く展開します。

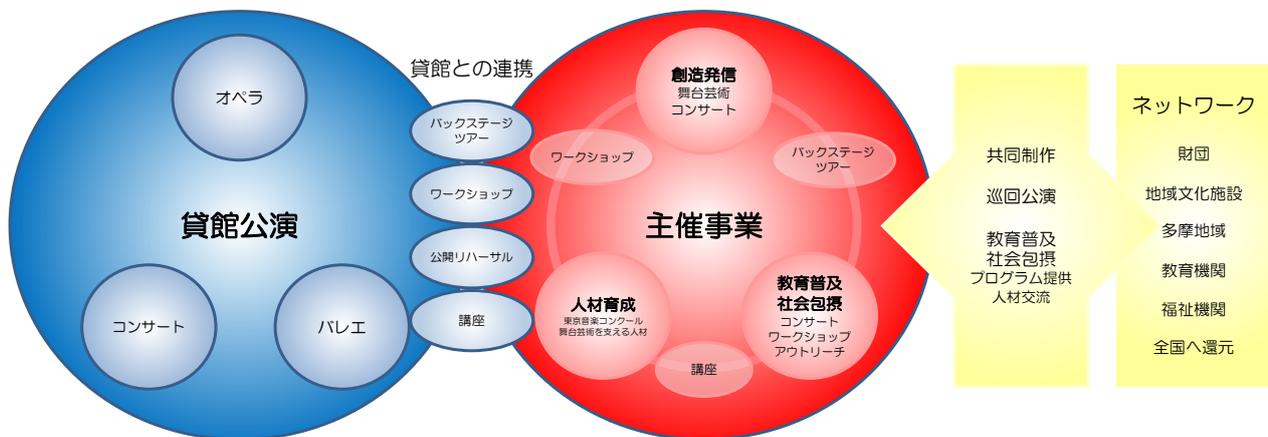
また、大学等との連携(パートナーシップ事業)等を通じて若年層の劇場に足を運ぶ機会を創出します。

(4) ネットワークの活用

施設を利用する実演家団体等との連携や、国内外のネットワークを強化し魅力ある事業を幅広く展開します。

新進若手の活躍する手段としてもネットワークを活用し、23区から多摩地域へ、そして地方とも連携を進め全国に還元します。

イメージ



事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

2. あらゆる世代、様々な個性を有する人々に集い親しまれる劇場へ ～社会包摂への取組

(1) 基本的な考え方

1 劇場が「参加交流」できる「広場」となり、「社会包摂」のための「居場所」となる

劇場法の施行を契機に、劇場のあり方・求められる役割が変わってきていると考えます。公立文化施設には、文化芸術の振興、文化芸術の力を活用した社会的課題解決に向けて、積極的な自主事業の展開が求められています。

こうした社会の趨勢を踏まえ、今後10年間の当館の目指す姿を「より多くの人々に集い親しまれる劇場」といたしました。「音楽・舞台芸術の殿堂」との評価をいただいていた当館は、引き続き、その中核的価値である高水準の舞台芸術の鑑賞機会の提供に尽力するとともに、音楽・舞台芸術の素晴らしさをより多くの方々に味わっていただけるよう、「音楽への入口体験から本格鑑賞・演奏への橋渡し」をするとともに、乳幼児から青少年、子育て世代、高齢者までのあらゆる世代、障害者、外国人等、様々な個性を有する方々にとって「参加交流」できる「広場」となり「社会包摂」のための「居場所」となることを意識していきます。

2 参加交流の促進・社会的課題に対応したプログラムの充実

こうした姿を目指し、これまでの伝統を守りつつ、さらに進化していくため、教育普及事業に力を入れ、参加交流を促進し社会的課題に対応したプログラムの充実を進めます。

3 全国的な社会包摂への取組の牽引役を目指す

平成25年度に開始した国際連携によるワークショップを柱事業へと成長させ、国内の先進劇場との連携や取組を始める劇場への支援を行い、また、RESEOを活用し、海外劇場とのネットワークも構築しながら、全国的な社会包摂への取組を牽引する館となれるよう、取り組んでまいります。

(2) 取組の方向性

- 音楽をツールとした様々なプログラムにより社会との関わりを持つ機会を創出
- あらゆる世代、様々な個性や不安を有する人々、誰もが集い交流できる劇場に
- 劇場に足を運べない方々にも音楽の力を

様々な
参加交流

1 気軽に参加しきっかけづくり ～単発プログラム

- ・ 音楽・楽器に関する知識や経験がなくても気軽に参加し楽しめるグループワーク
- ・ 気軽に1回参加し、「社会性」・「コミュニケーション」・「自己肯定」のきっかけを作る

2 参加交流を深めコミュニティの形成へ ～長期プログラム

- ・ 一定期間継続的にグループワークを行い、制作し成果発表等を行う
- ・ 達成感・自己肯定感を感じていただくとともに、交流を深め、居場所となる「コミュニティ」の形成につなげる

3 課題別のプログラムとソーシャルミックス

- ・ 社会的課題に対応したプログラムは、属性や個性に応じて関係機関と連携し、オーダーメイドのきめ細かな対応が必要であり、ターゲットを絞り効果的に展開
- ・ 社会性・社会包摂の観点からは、様々な人々が参加交流することが望ましく、対象をオープンにしたプログラムとともに、課題別プログラム参加者間の交流等を図る

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

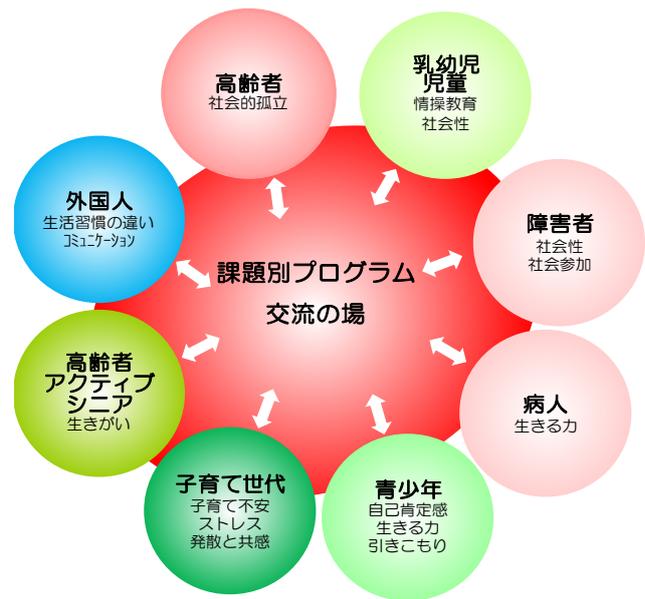
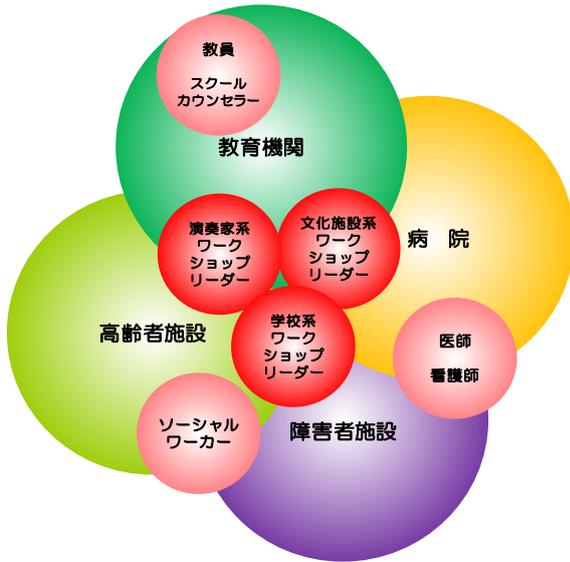
提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

4 アウトリーチプログラム

- ・ 教育機関や福祉施設とも連携した積極的なアウトリーチを実施し、幅広い層の参加から社会との繋がりを創出
- ・ 劇場に足を運べない人にも音楽をツールとした楽しさや生きる喜びを感じるひとときを届ける

5 ワークショップリーダー等、担い手の交流

- ・ 様々な取組を通じて、次代の担い手達が集う、交流の場所となる
- ・ 交流を通じて、新たな繋がりが取組の創出へ

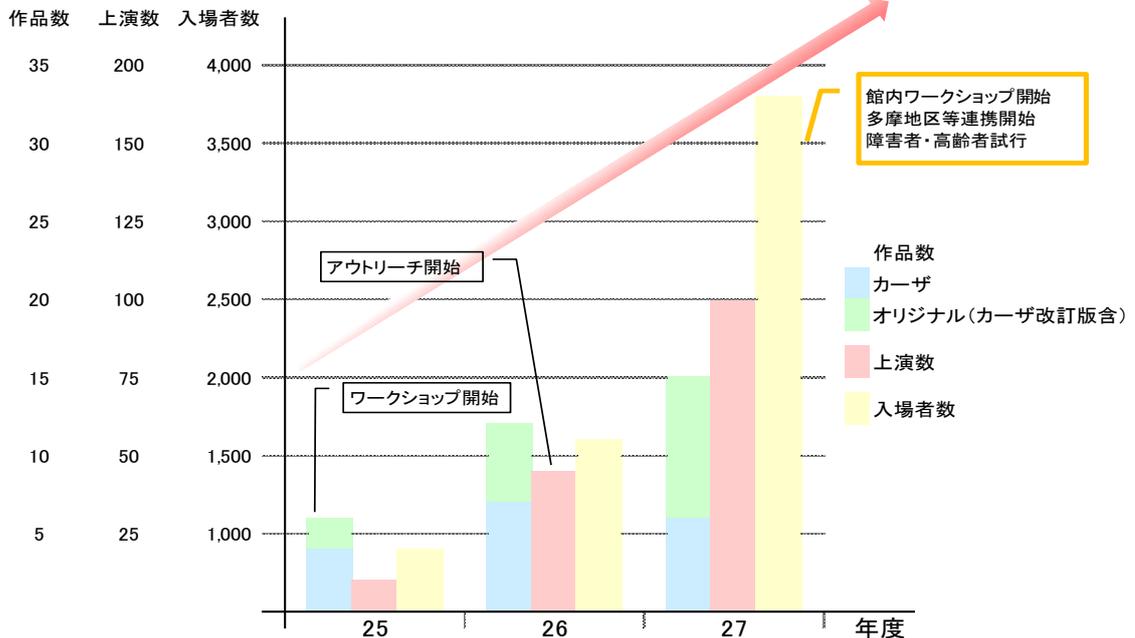


(3)実績と今後

平成25年度に開始した参加型プログラムは、3年を経て、参加者は顕著に増加しており、確かなニーズを感じています。

今後の10年間、館の中核を担う柱として発展させていきます。

参加型プログラム～国際連携ワークショップの拡充



事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

3. 事業体系

(1) 考え方

東京文化会館のミッションに基づき、一流オペラやバレエの積極的誘致による質の高い鑑賞機会の創出に加え、連携による普及事業の充実も図ります。
また、自主事業では劇場法や文化ビジョンを踏まえた芸術文化の振興に積極的に貢献していくため、「創造発信」「教育普及」「人材育成」を3つの柱として自主事業を展開してまいります。多様な事業には育成した人材を起用し、活躍する機会を創出します。これらの事業を集中的に開催する時期を「フェスティバル」として展開し、地域の活性化にも寄与してまいります。

事業体系		展開例
貸館	オペラ バレエ コンサート	<ul style="list-style-type: none"> ●東京文化会館ならではの、海外の著名劇場公演によるオペラやバレエ鑑賞の機会の創出 ●公益性の高い事業連携による普及事業の充実 ●幅広いジャンルの公演の積極的な誘致～若年層来館機会の創出へ
	舞台芸術シリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ●演劇、舞踊、映像、伝統芸能など、異なるジャンルとコラボレーションした新たな舞台芸術を創造し発信し、多様な観客が施設に足を運ぶ機会を創出 ●国際連携によるオペラや海外で活躍する邦人の作品を初演するなど先進的な試みに挑戦 ●小ホールにおけるオペラの創造をはじめとした新しいホールの活用や他の文化施設や地方と連携
創造発信	コンサートシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ●多ジャンルの音楽界トップアーティストによる演奏を奇跡の音響と言われる小ホールで味わう贅沢なひと時を提供 ●ジャズとクラシックの融合を試みるオーケストラ公演や都響と連携したのコンサートを開催 ●オリジナル企画のリサイタル、室内楽公演を制作し新進演奏家の演奏機会を創出
	コンサートシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ●都響と連携し、オープンハウス開催検討。誰でも音楽芸術に親しむ機会を創出 ●0歳児から高齢者、障害者などあらゆる人々を対象とした上質なコンサートを企画制作 ●新進演奏家によるクラシック初心者向けのコンサートを企画制作 ●教育機関や福祉機関と連携したアウトリーチを実施
教育普及	ワークショップシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ●海外の先駆的な劇場等と連携し、0歳児から高齢者まで幅広い対象に向けた多様な参加型プログラムを展開 ●障害者や社会的に孤立した状況にある人々などの社会的な包摂を図り、音楽・舞台の喜びの体験や芸術家との直接の触れあい等を伴うワークショップを実施 ●舞台芸術創造に直接関わるグループワークショップにより舞台芸術の理解を深め、参加者間のコミュニケーション能力も育む ●教育機関や福祉施設等とも連携した積極的なアウトリーチ活動を実施し、幅広い層に芸術に触れる機会を提供
	その他のプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●施設を活用した都響連携の無料コンサート、舞台の裏側、建築物としての魅力を伝える事業による認知度を高める取組を実施 ●パートナーシップ事業(大学等)を活用し若年層の芸術文化体験の機会を創出 ●施設に備わる音楽資料室ではレファレンスや資料を活用した講座等を積極的に実施し、認知度の向上と活用者の増加を図る
	新進音楽家育成	<ul style="list-style-type: none"> ●才能あふれる実力を備えた若手音楽家を発掘するため、ピアノ・弦楽・木管・金管・声楽の5部門で、東京音楽コンクールを実施 ●平成27年度より進んだ国際化を特にアジアに向けて推進 ●更なる知名度アップと水準の向上を図る＝新進音楽家の登竜門として定着へ ●優勝者コンサートをはじめ、様々なコンサートへの出演機会を提供し、リサイタルへの支援、マスタークラスの実施等、継続的な育成・支援を拡充
人材育成	舞台芸術を支える人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ●誰もが芸術に親しむ機会を創出するための取組として実施しているワークショップの担い手を発掘・育成し、活躍する場を提供 ●教育機関からのインターン受け入れ(アーツアカデミーの一環として実施検討) ●舞台芸術のワークショップを通じて、企画制作、舞台美術・照明・音響などホール運営を支える人材を育成

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

(2) 目標及び指定管理期間の実施方針

～伝統と革新-未来へ～

私たちは、平成29年度からの10年間に於いて、輝かしい伝統を継承しながら新しい舞台芸術を提案し、真の劇場として役割を果たしてまいります。
オリンピック・パラリンピックの芸術フェスティバル成功に寄与し、その成果をレガシーとして継承してまいります。
「創造発信」「教育普及」「人材育成」の三本柱を軸として、時代のニーズに合わせて拡充してまいります。
他を牽引する首都・東京を代表する舞台芸術文化の拠点として国内外にアピールしてまいります。

主な取組のスケジュール(想定)

		STAGE 1-1	STAGE 1-2	STAGE 1-3	STAGE 2		
中心となる事業展開		平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34～38年度 (2022～26)
創造発信	方向	「日本」に焦点をあてた作品(文豪・伝統・古典)・海外との連携・日本初演を中心に			継続的な開催へ～新たな観客の創出		
	オペラ	五大陸オペラ(仮称)準備		五大陸オペラ第1弾 公演 地方との共同制作	五大陸オペラ第2弾 公演 地方との共同制作	開館60周年記念 共同制作オペラ	海外/国内劇場連携 新作/初演 共同制作オペラ
	ミュージック・フロンティア	小曽根真シリーズをメインコンサートとして開催 ・ホールを活用した各種コンサート ・TOKYO Music Park(施設外事業) ・まちなかコンサート、ファンファーレ等 ・多彩な参加型コンサート⇒地域振興			・ホールを活用したオリンピックコンサート等 ・TOKYO Music Park(施設外事業) ・上野公園野外前夜祭フェスタ ・まちなかコンサート、ファンファーレ等 ・多彩な参加型コンサート、アーティストの競演		レガシーとしてMusic Program TOKYOの継続 上野「文化の社」の音楽祭として定着
教育普及	方向	最先端のワークショップを活用した幅広い層が参加する事業・社会的課題の解決		他の文化施設等にプログラムや人材の提供		全国の劇場を牽引するリーダー館	
	一般展開向け	・0歳児から大人までの事業を都内で幅広く展開 ・アクティブシニア向けにも展開		・海外とのネットワーク構築(フォーラムの開催等) ・東京芸術祭の一環として都内各地で開催～ネットワーク拡大		誰もが活用する文化施設に	
	社会包摂	・高齢者/障害者等との事業に本格的に着手⇒徐々に拡大 老人ホーム、施設、病院等へのアウトリーチ (市区町村/福祉機関/NPO団体等との幅広い連携～全国に発信)		・パラリンピックの文化プログラムとして舞台上演へ		各地域・コミュニティの活性化へ	
人材育成	方向	平成27年度の国際化・リニューアルを踏まえ、新進演奏家を支える事業展開を行う					
	展開	・国内外での認知度を高める		・海外からの参加者増加 ・入賞者が海外で活躍する機会を創出 ・オリンピック事業としても活用 (入賞者の活用/特設部門の設置)		・60周年事業に入賞者起用 ・20周年(H35年度)にスペシャル企画 ・入賞者の活躍機会増加 ・世界的なアーティストの輩出へ	
	育成プログラム	大学・都内文化施設等との連携による若手の育成		様々なノウハウの吸収と還元 都内の文化施設等で活躍の場が広がる		成長したワークショップリーダーが全国の若手担い手を育成	
展開	・大学や文化施設との連携を深め、相互に属する若手の育成に着手		・カーサ・ダ・ムジカのみならず、海外の他の先駆的な取組から幅広くノウハウを学ぶ ・実践の機会の増加 ・オリンピック事業としても活用		・60周年事業で活躍 ・全国規模で広がる育成プログラム ・都外における活躍が顕著に		
事業者名・団体名		公益財団法人東京都歴史文化財団					

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

4. 創造発信事業の実施方針

(1) 新たな舞台芸術の創造～幅広い観客創出

他ジャンルのコラボ等の新たな舞台芸術を創造して、大・小ホールを持つ魅力を新たな可能性と共に提案し、児童や若者等、次世代も視野にした幅広い観客の創出に繋がります。

(2) 様々な舞台芸術の鑑賞・体験～多様な文化の共有

様々なジャンルの一流のアーティストを起用した鑑賞機会を創出し贅沢なひと時を提供するとともに、多様な文化を学ぶ機会とします。

(3) 若手の活躍機会を創出

新進アーティストが活躍する機会を創出し研鑽と魅力を多くの観客に伝える場とします。

(4) 様々な対象へのアプローチ

あらゆる人々を対象とした事業を展開し、人との繋がりを育て豊かな心を醸成します。

5. 展開の視点

劇場法の施行以降、貸館公演では実施しにくい新しい舞台芸術の提案に取り組み、新たな観客へのアプローチを開始しています。

観客の高齢化や今後の貸館運営を鑑み、公立文化施設ならではの公益事業を以下のような視点で長期的に展開します。

国際・国内連携

芸術性は高いが民間では実現し得ない、海外で注目を集める邦人アーティストの作品や日本の文豪による作品を題材としたオペラ、斬新な演出作品の紹介等を国内外の劇場等と連携して企画・制作します。

他・多ジャンルとのコラボレーション

既存の舞台芸術に囚われず、日本舞踊や能等の伝統芸能や映像等の様々なジャンルの舞台芸術を融合した新たな舞台芸術作品を創造し発信していきます。

「新しいクラシック」の提案

時代が求めるクラシック音楽のあり方を追求し、音楽を楽しむ観客の拡大に寄与します。

オペラの魅力

再現芸術に留まらない「オペラ」を創造し、その魅力を伝えます。

鑑賞機会の創出

子供から高齢者や障害者、クラシックになじみのない方からコアなクラシックファンまで、誰もが楽しめる上質なコンサートを幅広く企画制作し提供します。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

6. 展開例

内容	対象	展開例
	クラシックファン 多ジャンル芸術ファン 一般	<ul style="list-style-type: none"> ○舞台芸術創造事業 <ul style="list-style-type: none"> ・海外との連携作品の初演 ・伝統芸能(日本舞踊・能等) ・文豪シリーズ ・人形劇と現代音楽 ・映像とのコラボ 等 ○五大陸オペラ(仮称)の共同制作 ○創遊・楽落らいぶ

舞台芸術シリーズ



オペラ初心者・児童・ファミリー	○オペラBOX
-----------------	---------



事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

内容	対象	展開例
	クラシックファン・JAZZファン	○Jazz meets Classic
	クラシックファン 多ジャンルの音楽ファン 一般	○プラチナ・シリーズ ○シャイニング・アーティスト・シリーズ ○響の森コンサート

児童から一般多文化音楽ファンも対象とした身近な音楽体験
コンサートシリーズ



ミツシャ・マイスキ

Music Program TOKYO
 Enjoy Concerts!
 プラチナ・シリーズ



メキシカン パーカッション「タンブッコ」

Jazz meets Classic 小曾根真×Pデリベラ



アクティブシニア 児童 一般/初心者	○上野deクラシック ・アクティブシニア向けの平日午前のコンサート ・ファミリー向けの休日や夏休みのコンサート ・19時からのワンコインコンサート
一般	○文化×芸劇 小ホールコンサート



東京音楽コンクール入賞者のトーク付コンサート

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3【事業に関する業務】 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (1) 魅力的な公演等の実施に向けた方針

7. 創造発信の事業内容(想定)

事業名		内容	
舞台芸術シリーズ【既成の音楽ジャンルや表現形式に捉われず新たな可能性を追求した作品を創造】			
	舞台芸術創造事業	○国際連携 海外で注目を集める邦人アーティストや日本を題材とした作品、斬新な演出作品の紹介等を海外の劇場等と連携して企画・制作 ○他・多ジャンルとのコラボレーション 既存の舞台芸術に囚われず、様々なジャンルの舞台芸術を融合した新たな舞台芸術作品を創造・発信	
	五大陸オペラ(仮称) 【東京都共催】	オリンピック・パラリンピック文化プログラムの一環として開催するオペラ2演目を準備 ・国際連携 ・地方文化施設、実演家団体との共同制作(予定)	
	オペラBOX	小ホールの限られた空間を最大限に活用し、新しいオペラの可能性を探り幅広い層に向けた作品を企画制作し発信 ・東京音楽コンクール入賞者の演奏機会を創出 ・「オペラをつくろう!」と連携。	
	創遊・楽落らいぶ	小ホールの限られた空間を最大限に活用した、音楽と落語のコラボレーション。 演奏、落語とのセッションの2部構成で創造する。	
コンサートシリーズ【クラシックを基軸とし多様な可能性を追求したコンサート】			
創造 発信	M u s i c P r o g r a m T O K Y O	Enjoy Concerts! Jazz meets Classic (旧:メインコンサート) 【アーツカウンシル東京共催】	ジャンルを超えた国内外のトップアーティストとオーケストラの競演による新しいコンサート Jazzとクラシックの融合から生まれる「新クラシック」を提案
		Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ 【アーツカウンシル東京共催】	「奇跡の音響」と称される小ホールで、一流アーティストによる珠玉のコンサートで贅沢なひとときを提供
		Enjoy Concerts! シャイニング・アーティスト・シリーズ 【アーツカウンシル東京共催】	音コン入賞者等の新進演奏家による上質なクラシックコンサート。若手アーティストの活躍の機会を創出
	響 の 森	サマーコンサート	優れたオーケストラのコンサートを、手頃な価格で提供。音楽監督プロデュースにより開催テーマを定め、都響によるコンサートを夏、冬のシーズンで実施
		ニューイヤーコンサート	
	入 賞 者 シ リ ー ズ	上野deクラシック	○東京音楽コンクール入賞者を起用 平日の午前リサイタルを入賞者デビューコンサートを位置づけ デビュー後の入賞者が活躍する機会として、その他のコンサートを新たに企画 ・リサイタル:解説付きの名曲コンサート 1時間公演 500円(午前6回/夜3回) ・室内楽:解説付きの名曲コンサート 1時間公演1000円(午前3回/マチネ2回)
	連 携	文化×芸術【連携企画】 小ホールコンサート	東京芸術劇場と連携し、共通テーマによるコンサートを企画制作

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(2) 教育普及活動

1. 実施方針

(1) 芸術文化をあらゆる人へ

劇場のあるべき姿としてあらゆる人が芸術文化に触れ参加できる機会を提供することを大きな使命と考えます。

(2) 人との繋がりや豊かな心を育む

あらゆる人々の芸術文化を学び楽しむ機会を創出し人との繋がりや豊かな心を育みます。

(3) 社会的課題に対応した展開

対象を明確にした教育普及事業を展開し、0歳児から児童、青少年、子育て世代、高齢者、障害者等が多様な目的で集う劇場を目指します。
また、劇場に足を運ぶ機会の無い児童や高齢者、障害者等に向けたアウトリーチを実施します。

(4) 若手の育成と活躍

育成した教育プログラムの担い手である若手人材が活躍する機会を創出しより多くの人々の芸術文化に親しむ機会を創出しながら、若手人材の育成にも繋がります。

(5) 多様な連携～地域・劇場の活性化へ

都立文化施設等と連携した教育普及事業の展開を通じて若年層の来館機会の創出に繋げ、長期的な視点で地域や劇場の活性化を図ります。

2. 展開の視点

最先端の教育プログラムを実施している海外や、教育機関、また他の都立文化施設等と連携しながら、幅広い取組を長期的な視点で展開していきます。

海外連携

海外とのネットワークを活用して最先端の教育プログラムを幅広く実践します。

教育機関連携

未就学児から大学生を対象とした多様な事業を教育機関と話し合いながらニーズに合った事業を企画・制作し提供します。

社会的課題への対応

福祉機関と連携し、高齢者や障害者等を対象とした鑑賞型、体験・参加型事業を企画・制作し、音楽芸術をツールとした豊かな心の醸成の機会を幅広く提供します。
それぞれの対象に合わせて対象機関と相談しながら一緒にオリジナルの作品を制作します。

施設を活用

だれもが気軽に立ち寄り、楽しいひと時を送ることができる「劇場」として、施設を最大限に活用します。

都立文化施設等、多様な連携

子供たちの文化施設デビューを応援し連携して実施する「あいうえの冒険隊」や大学等とのパートナーシップ事業、施設内に同居する東京都交響楽団や近隣の文化施設等との連携等の多様な教育普及事業の展開により、若年層の舞台芸術体験の機会を創出します。
人材育成を通じてアーティスト等と共に制作した鑑賞型、参加型教育普及プログラムを都内文化施設等に提供し、隅々まで届けることを目指した連携も推進します。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(2) 教育普及活動

3. 展開例

内容	対象	展開例
	ファミリー	○夏休み子供音楽会(オープンハウスを予定) ○3歳からの楽しいクラシック
	街を行くあらゆる人々	○まちなかコンサート ・～芸術の秋、音楽さんぽ～ ・連携企画
	未就学児・小学生・中学生・高校生	○アウトリーチ・コンサート
	障害を持つ児童・学生	○障害者のためのオーケストラ公演

「3歳からの楽しいクラシック」



「アウトリーチコンサート」



「まちなかコンサート」



「特別支援学校 オーケストラ公演」



児童等を対象とした身近な音楽体験
コンサートシリーズ

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(2) 教育普及活動

内容	対象	展開例
ワークショップシリーズ あらゆる人々が参加	0歳から大人、アクティブシニア 高齢者・障害者等	○Workshop Workshop！国際連携企画 ・ワークショップ・フェスタ・東京文化会館ミュージック・ワークショップ ○あいうえの冒険隊(各館連携) ○高齢者施設・特別支援学校・病院等訪問 ・歌や身体を使ったリズム等を使用した体験型ワークショップの出張訪
	未就学児・小学生・中学生・高校生	○アウトリーチ・ワークショップ ○オペラをつくろう！
	高校生・大学生～	○オペラをつくろう！ ○ワークショップ×バックステージツアー
	一般・専門家	○Talk & Lesson ○Workshop Workshop！国際連携企画 ・フォーラム

オペラをつくろう！

「オペラの登場人物になる！」リハーサル



「工作」



「バレエ」

ミュージックワークショップ

「シング&ピート」



「カラダ・オト・ウタウ」



「リズムカル・キッチン」

Talk & Lesson



小曽根真「自分で見つける音楽」

フォーラム



ロンドン交響楽団の教育プログラム
「Discovery」

あいうえの冒険隊



その他のプログラム
施設全体を紹介

一般(初心者、クラシック愛好者)	○バック・ステージ・ツアー ○ティータイム・コンサート ○公開リハーサル
一般・専門家	○音楽資料室におけるプログラム ・レファレンス・各種講座の開催(生涯学習・学生向け等) ・校外学習の受入



バック・ステージ・ツアー



ティータイムコンサート

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(2) 教育普及活動

4. 教育普及の事業内容(想定)

事業名		内容
コンサートシリーズ		
M u s i c P r o g r a m T O K Y O	夏休み子供音楽会 《上野の森 文化探検》	○オープンハウス(仮) 夏休み期間中に上野公園各文化施設や観光まちづくり推進会議と連携し(無料入場・割引等)ファミリーを主な対象とした解説付きのオーケストラコンサートを開催。小ホールなど他の会場も使用しオープンハウスとして多様な舞台芸術を体験する機会を提供する。 コンサートやワークショップ、音楽資料室でのレクチャー等を実施して施設の魅力を紹介。
	Enjoy Concerts! 3歳からの楽しいクラシック 【アーツカウンシル東京共催】	未就学児を対象とした本格的なクラシックコンサート
	Enjoy Concerts! まちなかコンサート ～芸術の秋、音楽散歩～ 【アーツカウンシル東京共催】	都内の文化施設と連携して、芸術や音楽に親しみがもてる環境作りを目指し地域に根ざした「まちなかコンサート」を開催。東京音楽コンクール入賞者を中心とした若手演奏家が出演し秋のフェスティバルの一環として実施。
	Enjoy Concerts! まちなかコンサート～連携企画～ 【アーツカウンシル東京共催】	文化施設や様々な機関と連携して芸術や音楽に親しみがもてる環境作りを目指し音コン入賞者等によるミニコンサートを開催。
	Music Education Program アウトリーチ・コンサート 【アーツカウンシル東京共催】	教育機関等における新進演奏家による参加型コンサートの開催
	Music Education Program 障害者のためのオーケストラ公演 【アーツカウンシル東京共催】	都立特別支援学校を対象としたオーケストラのコンサートの開催
ワークショップシリーズ		
M u s i c P r o g r a m T O K Y O	Music Education Program オペラをつくらう! ～工作・登場人物になる～ 【アーツカウンシル東京共催】	○工作 ワークショップで作った作品がオペラの舞台に登場。舞台美術として重要な役割を果たすものづくりに参加することで、子供たちの舞台芸術への関心を高める ○オペラの登場人物になる オペラ公演に向けて、プロの指導者から歌・合奏・演技、舞台に立つマナーを楽しく学ぶ。年齢層に幅がある集団で創造する過程の中で、リーダーシップや協調性等のコミュニケーション能力も育成。 第一線で活躍する演奏家やプランナーと共にステージに立つ、貴重な機会を提供。 ○次代の舞台芸術を支える人材に 自主事業に児童が参加する企画を継続して実施し、参加する児童や家族が施設を通じて芸術を身近に感じる機会を創出し、次代を担う芸術家や観客となる
	Music Education Program アウトリーチ・ワークショップ 【アーツカウンシル東京共催】	○学校行事等のコンサートを新進演奏家の楽器指導を受けながら創り上げて上演(クリニック) ○Workshop Workshop!制作作品やオリジナル作品を年齢に応じて授業の一環としてクラス単位、学校単位で実施。共に創り上げる行程を経てコミュニケーション能力の育成や、芸術を身近に感じる豊かな心の育成に寄与
	Music Education Program Workshop Workshop!～国際連携企画～ ワークショップ 【アーツカウンシル東京共催】	○0歳児から高齢者まで 世界から注目を集めている音楽施設『カーザ・ダ・ムジカ』と連携したカーザ・ダ・ムジカで行われているワークショップや、東京文化会館オリジナルのワークショップを【夏】【秋】に集中的に「フェスタ」として開催 ○障害者など 障害者や社会的に孤立した状況にある人々が芸術文化に親しむ機会を創出するために先駆的に展開 ○連携 ・他の文化施設と連携した、0歳から高齢者等を対象とした参加型音楽ワークショップを開催 ・各施設が実施する教育プログラムを共同で制作し、多ジャンルとのコラボレーションによる様々な切り口の教育プログラムによる文化芸術を幅広く楽しむ企画を提案
	Music Education Program Workshop Workshop!～国際連携企画～ 東京文化会館ミュージック・ワークショップ 【アーツカウンシル東京共催】	○東京文化会館発のワークショップ 東京文化会館で生まれたワークショップやカーザ・ダ・ムジカ作品アレンジ版を東京文化会館ワークショップリーダーにより館内で定期的に開催し、文化施設における人々の芸術を介した交流の機会を創出するとともにリーダーの活躍の機会を提供
	Music Education Program Talk & Lesson 【アーツカウンシル東京共催】	Enjoy Concerts!等に出演するアーティスト等による参加型ワークショップや新進演奏家の研鑽の機会を提供
	Music Education Program バレエワークショップ(要検討) 【アーツカウンシル東京共催】	バレエの体験型ワークショップと児童を対象とした公演を開催【要検討】
	その他のプログラム(初心者～クラシック愛好者向け)	
教育普及	バックステージツアー	○バックステージツアー 舞台技術スタッフと連携したバックステージツアーや、建築としての施設案内を定期的に開催して舞台裏を紹介。舞台機構や照明・音響など舞台裏を巡ることでホールの魅力を伝え、ファンを拡大 ○建築ツアー 建築を学ぶ学生や専門家等に前川國男の建築物として施設を紹介
	公開リハーサル	都響と共催で定期演奏会の公開リハーサルを行い音楽愛好家の裾野拡大を図る
	ティータイムコンサート	都響と連携しホワイエで昼下がりに無料のアンサンブル演奏会を開催し幅広く劇場に足を運ぶ機会を創出
	音楽資料室プログラム	日常的なレファレンス対応、学生の校外授業対応や、専門家による講座の開催等を通して音楽資料室を広くアピール

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(3) 人材の育成

1. 実施方針

(1) 優れた新進音楽家の発掘

優れた新進音楽家を発掘し、東京から世界に発信し「芸術文化都市 東京」のステイタス向上に寄与します。

(2) 舞台芸術を支える人材の育成

舞台芸術を下支えする専門人材を育成し、自主事業や地域、全国の文化施設の活性化に寄与します。

(3) 若手の活躍機会の創出

育成した人材が活躍する機会を創出する多様な事業を展開し、若手人材の研鑽の場を創出するとともに、より多くの人々が芸術文化に親しむ機会の創出に繋がります。

2. 展開の視点

人材の育成には、実践する場が数多くあることが重要と考えます。
発掘、講座を実施するだけに留まらず、優れた人材が活躍できる事業を幅広く展開していきます。

新進音楽家

東京音楽コンクールの国際化を推進し、東京からアジアへ、そして世界へ羽ばたく新進音楽家を発掘し、オーケストラ共演やリサイタル、アンサンブルやアウトリーチ等の多様なプログラムに出演する機会を提供することにより育成していきます。

教育プログラムの牽引役

教育プログラムの牽引役であるワークショップリーダーがノウハウを学び、定期的なワークショップの開催やアウトリーチを通じた活躍する機会を創出します。海外の先駆的な劇場等のネットワークを活用し、今求められる人材を育成します。

舞台芸術を支える

多様化する公立文化施設の事業運営の次代の担い手として制作や舞台技術を学ぶ学生等に、実践する機会を提供し、机上では学べない経験を積み即戦力となる人材を育成します。

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(3) 人材の育成

3. 展開例

内容	対象	展開例
<p>新進音楽家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽部門:15-30歳 ・ピアノ部門:-30歳 ・声楽部門:20-35歳 ・木管部門:18-30歳 ・金管部門:18-30歳 		<ul style="list-style-type: none"> ○ピアノ、弦楽、木管、金管、声楽の5部門の内3部門で楽器が混在 ○平成27年度より5部門中、隔年(木管・金管)、2年開催後1年休み(ピアノ、声楽、弦楽)の3部門で開催し国際化として展開 ○1次予選(小ホール:非公開) 2次予選(小ホール:公開) 本選(大ホール:オーケストラ伴奏、公開) ○優勝者コンサート ○フレッシュ名曲コンサート ○入賞者支援リサイタル ○自主事業(小ホールコンサート、アウトリーチ、オペラ)への出演 他

東京音楽コンクールの開催
新進音楽家育成

東京音楽コンクール
小ホールにおけるリサイタル形式の2次審査



東京音楽コンクール 2次審査

大ホールにおける本選はオーケストラとの共演



東京音楽コンクール 本選

多様なアーティスト育成プログラムを実施



マスタークラスやワークショップの実施



オープンディスカッションの実施

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(3) 人材の育成

内容	対象	展開例
	18歳以上 ・アーティスト (音楽家、ダンサーなど) ・教職員 ・学生 ・音楽ワークショップリーダーの活動に興味がある人	○Workshop Workshop! 国際連携企画 ワークショップリーダー育成プログラム (受講生、聴講生)
	18-25歳 ・大学生 ・舞台デザイン(装置、衣裳、照明)やアートマネジメントを専門に学んでいる人 ・舞台デザイナーや制作者を目指している人	○オペラをつくろう! ~舞台を学ぶ~
	・大学生・大学院生 ・アートマネジメントを専門に学んでいる人	○インターン受入

制作・ワークショップリーダー・舞台芸術を支える人材育成

優秀受講生のカーザ・ダ・ムジカ派遣研修を地元紙で紹介



Workshop Workshop!
~国際連携企画~
ワークショップリーダー
育成プログラム



カーザ・ダ・ムジカ講師による指導

日本各地から集う受講生

カーザ・ダ・ムジカ派遣研修の一環で
認知症患者とのワークショップを体験

オペラをつくろう! 「舞台を学ぶ」
舞台美術製作や照明スタッフとして、制作としてオペラ創りに参加



舞台美術家を目指す学生による小道具製作



制作を学ぶ学生

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
(3) 人材の育成

4. 人材育成の事業内容(想定)

事業名		内容	
人材育成	新進音楽家育成[東京音楽コンクールを開催し新進音楽家を発掘・育成・支援する]		
	東京音楽コンクール	第1次予選(非公開審査)	○目的 芸術家としての自立を目指す可能性に富んだ新進音楽家を発掘し、育成・支援することを目的に東京音楽コンクールを平成15年より開催 ○部門 ピアノ、弦楽、木管、金管、声楽の5部門の内3部門で楽器が混在する特徴 平成27年度より5部門中、隔年(木管・金管)、2年開催後1年休み(ピアノ、声楽、弦楽)の3部門で開催 ○国際化に向けて展開～魅力ある招聘審査員～ ヨーロッパやアジアで活躍するアーティストを審査員として招聘し、海外へ繋がる魅力あるコンクールをアピールし、優れた新進演奏家を発掘
		第2次予選(公開審査)	○国際化に向けて展開～魅力ある招聘審査員～ ヨーロッパやアジアで活躍するアーティストを審査員として招聘し、海外へ繋がる魅力あるコンクールをアピールし、優れた新進演奏家を発掘
		本選(公開審査) *オーケストラとの共演	○機会の創出 自主事業や財団の施設、都の文化施設の事業へ積極的に起用し、社会性を兼ね備えたアーティストへと育成 ○世界に羽ばたく コンクール招聘審査員や自主事業の国際連携を通じて、海外で演奏する機会創出を検討
		優勝者コンサート	部門優勝者がオーケストラと共演する披露演奏会
	フレッシュ名曲コンサート	都内区市町村と共催し、地域のホールで入賞者が独奏者としてオーケストラと共演	
	入賞者支援リサイクル	コンクール翌年度から5年間、入賞者が行うリサイクルを支援(館が共催、広報宣伝を行い、小ホールの使用料を減免する)	
	舞台芸術を支える人材育成[制作・ワークショップリーダー・舞台技術・プランナーなど舞台芸術を支える人材を育成する]		
	Music Education Program Workshop Workshop! ～国際連携企画～ ワークショップリーダー育成プログラム 【アーツカウンシル東京共催】	M u s i c P r o g r a m T O K Y O	○目的 音楽や芸術に対する関心を高めながら自己表現能力やコミュニケーション能力を養い、また、現代社会が抱える問題解決の糸口となるようなワークショップを創出し、ワークショップ現場において参加者をリードするという重要な役割を担う人材の育成を目的として実施。発掘・育成・支援を伴う長期的な取組。 ○学ぶ カーザ・ダ・ムジカやイギリス等の先駆的な取組を行う劇場や実演家を招聘し、ノウハウを学ぶ機会を創出 優秀な受講者はカーザ・ダ・ムジカへの派遣研修を受講 ○創り、実践する 人材の育成には実践が不可欠と考え、学んだノウハウを実践するワークショップを企画し、数多くのファシリテーションを経験・実践する機会を提供。実践に繋げることでステップアップを図る ○東京文化会館ワークショップリーダーの育成 優れたワークショップリーダーを東京文化会館ワークショップリーダーと位置付け、研鑽する機会を提供。 ○他の文化施設や地域へも還元する機会を創出し、成長の相乗効果を狙う。 ○フォーラムの開催 プリティッシュ・カウンシル等との連携により、海外の実例を紹介しながら、日本の教育普及のあり方を学ぶ機会を創出
		Music Education Program オペラをつくらう!～舞台を学ぶ～ 【アーツカウンシル東京共催】	○舞台芸術の専門家を育成 机上では学ぶことのできないオペラ制作過程をプロのアーティストやスタッフと共に体験する機会を提供し、将来の舞台芸術の専門家を育成する。
インターンシップ	教育機関と連携し、大学等でアートマネジメントを学ぶ学生を積極的に受け入れ、職員の一員として丁寧に指導し、多様な実務の経験を通じて個々の適応性を見定め成長を促す。		
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団		

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (4) 平成29年度・平成30年度の事業計画
 事業計画案 (平成29年度)

事業区分	事業名	内容	場所	29年度			共催・連携				
				時期	公演数等	予定経費(千円)概算	国際連携	文化施設	自治体	教育機関	都庁
創造発信	舞台芸術シリーズ【既存の音楽ジャンルや表現形式に捉われず新たな可能性を追求した作品を創造】										
人材育成	コンサートシリーズ【クラシックを基軸とし多様な可能性を追求したコンサート】										
	新進音楽家育成【東京音楽コンクールを開催し新進音楽家を発掘・育成・支援する】										
	舞台芸術を支える人材育成【制作・ワークショップリーダー・舞台技術・プランナーなど舞台芸術を支える人材を育成する】										

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (4) 平成29年度・平成30年度の事業計画

事業計画案 (平成29年度)

事業区分	事業名	内容	場所	29年度			共催・連携				
				時期	公演数等	予定経費(千円)概算	国際連携	文化施設 自治体	教育機関	都署	その他
教育普及	コンサートシリーズ										
	ワークショップシリーズ										
	普及プログラム(初心者〜クラシック愛好者向け)										
		公演数合計									

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (4) 平成29年度・平成30年度の事業計画
 事業計画案 (平成30年度)

事業区分	事業名	内容	場所	30年度			共催・連携				
				時期	公演数等	予定経費(千円)概算	国際連携	文化施設	自治体	教育機関	都庁
創造発信	舞台芸術シリーズ【既存の音楽ジャンルや表現形式に捉われず新たな可能性を追求した作品を創造】										
人材育成	新進音楽家育成【東京音楽コンクールを開催し新進音楽家を発掘・育成・支援する】										
	舞台芸術を支える人材育成【制作・ワークショップリーダー・舞台技術・プランナーなど舞台芸術を支える人材を育成する】										

提案課題3 [事業に関する業務] 1 芸術文化の振興に関する事業について
 (4) 平成29年度・平成30年度の事業計画

事業計画案 (平成30年度)

事業区分	事業名	内容	場所	30年度			共催・連携					
				時期	公演数等	予定経費(千円)概算	国際連携	文化施設 自治体	教育機関	都署	その他	
教育普及	コンサートシリーズ											
		ワークショップシリーズ										
	普及プログラム(初心者〜クラシック愛好者向け)											
	公演数合計											

提案課題3 [事業に関する業務] 2 施設の利用について (1) 実施方針と貸館の運営戦略

1. 実施方針

当館は、2,000席以上の客席にオーケストラピットを有する本格的なホールであり、「優れた音響」、「交通至便」等の特性から、毎年多くの利用申込を受け、高い稼働率を実現しています。

開館以来、国内外の最高水準の公演が開催されており、**良質な公演の鑑賞機会の提供は、「音楽・舞台芸術の殿堂」との評価を築いた、館の中核的な価値であると考えます。**今後とも貸館事業を重要な柱と位置づけ、これまでに積み上げた信頼関係を活かし良質な公演を誘致するとともに、**安全・安心を確保しつつ、高い舞台技術・提案力により本物の演出を実現し、主催者・観客の双方のお客様にご満足いただけるよう尽力してまいります。**

また、**劇場法の施行以降、公立文化施設には積極的な自主事業の展開が求められています。**民間事業者では実施しにくい領域を意識し、これまでも積極的に拡充を図ってきましたが、「東京文化ビジョン」を踏まえ、新たな舞台芸術の創造、新進音楽家の育成、教育普及、社会的課題解決への取組等、一層の取組を進めてまいります。**貸館事業とのスケジュール調整を密に行い、効果的な時期に最大限の事業を実施していきます。**貸館公演の日程調整が早期に行われることから、それを前提に効果的に自主事業を実施できるよう日程調整を図ります。

2. 貸館の運営戦略

現在の施設稼働率は、大ホールはおよそ9割、小ホールはおよそ8割台後半と、大変高くなっています。また、オペラ・バレエでは、首都圏の音楽ファンに向けた世界一流公演の唯一の場所となることも少なくありません。今後とも、**高水準の公演の鑑賞機会を提供するとともに、高い施設稼働率を維持するよう取り組んでまいります。**

他方、**観客・聴衆の高齢化に伴う減少も起こりつつあり、今後、大規模公演の公演数・期間等の縮小なども懸念されることから、将来に向けた方策を進めていくことが肝要です。**

(1) 各施設の運営戦略

<大ホール>

①質の高い舞台芸術の提供

大ホールで行われる**オペラ・バレエは、公演の3～4年前に企画・開催決定される実態を踏まえ、今後も、この時期から積極的に情報収集・事前調整**を行い、**していきます。**

②オペラ・バレエを中心としつつ、クラシックコンサートも誘致

「世界最高水準のオペラ・バレエを東京文化会館で」というお客様の声に応えるべく、オペラ・バレエ公演を中心に誘致を図ってきた結果、現在、オペラ・バレエ公演が圧倒的な比重を占めるようになりました。当館は、複雑な演出効果にも耐えられる舞台機構、照明設備、音響設備を備え、舞台・施設運営に主催者からの厚い信頼も得られており、**今後も、オペラ・バレエ公演を中心に、国内外の質の高い舞台芸術の鑑賞機会を提供**していきます。また、優れた音響からクラシックコンサートの名演が数多く行われた実績も踏まえ、**オペラ・バレエ公演の開催動向を見極めつつ、クラシックコンサートについても誘致**していきます。

<小ホール>

①質の高い室内楽やリサイタルの提供

特筆される音響の良さを生かし、**質の高い室内楽やリサイタルを中心に誘致**していきます。

日本を代表する舞台芸術の主催者・招聘元であるプロモーター、音楽事務所に対し、これまでに培った信頼関係を生かし、積極的に情報収集を図り、営業を行い、公演誘致を推進します。

②新進音楽家への支援、新たな挑戦を応援

若手の新進音楽家の育成を図るため、内外のコンクールに入賞した**新進アーティストの演奏会、新進の作曲家、演出家、監督による舞台創造的作品等へ積極的に貸出**していきます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 2 施設の利用について

(1) 実施方針と貸館の運営戦略

(2) 公演実施に向けた迅速・円滑な調整

< 日程調整 >

公演内容の把握に努め、公演実施に無理がなく過大でない適切な期間の設定を図っていきます。定期的に連絡を取り、公演内容の変更等を速やかに把握します。

< 舞台演出 >

主催者の希望する演出に対し、当館の機構設備等を踏まえ、安全を確保しつつ、最大限の実現を図ります。実現が難しい場合にも、安易にNOと言わず、代替案の提案等を行い、主催者が納得できる公演内容を実現します。

< 専門性の高い総合調整窓口 >

主催者との調整窓口には、音楽、舞台芸術に係る造詣があり、ホール運営と舞台技術両面に係る専門的な知識・経験を有する人材を配置し、日程調整、舞台演出からホールレセプション・展示等の調整までワンストップでの総合調整を行い、主催者の利便性を向上するとともに厚い信頼関係を築いていきます。館内の公演情報ネットワークの中核として、主催者から得られた情報を館内関係部署に発信し、協議の上、対応を調整します。

(3) 貸館公演との連携 ～ 高水準公演を活用した事業展開 ～

当館の貸館公演は、海外招聘をはじめ、国内外有数の水準のものが多く、これが当館の重要な価値となっています。この当館ならではの特徴を効果的に活用するため、**公演主催者と連携した公益的なプログラムの実施を検討**していきます。

例えば、次世代に対する安価な入場料金の設定、バックステージやリハーサルの公開、憧れのスターによるワークショップ、トークショーなど、最高峰・本物に触れる体験、間近に感じる体験は、興味・関心・向上心を刺激し、音楽への関わり・より深い関わり・音楽家への研鑽を促し、音楽芸術の振興に繋がります。また、公演内容に応じた館内展示、映像発信等は、館の賑わいを演出し、来街者に対する音楽・舞台芸術への入口ともなりえます。

貸館公演と連携し、利用料金等のインセンティブと絡めて、こうした公益的なプログラムの展開の可能性を検討します。

また、観客の高齢化、ヨーロッパの財政状況、中国の台頭等による海外招聘公演の動向等の**環境変化の中で安定的に公演や稼働率を確保していく観点からも、年間利用日数、公演の質を基準に、公益的プログラムの実施などと、利用料金等のインセンティブを絡めた展開の可能性も検討**していきます。

(4) 新たな音楽ジャンルの開拓 ～ 営業活動・顧客開拓 ～

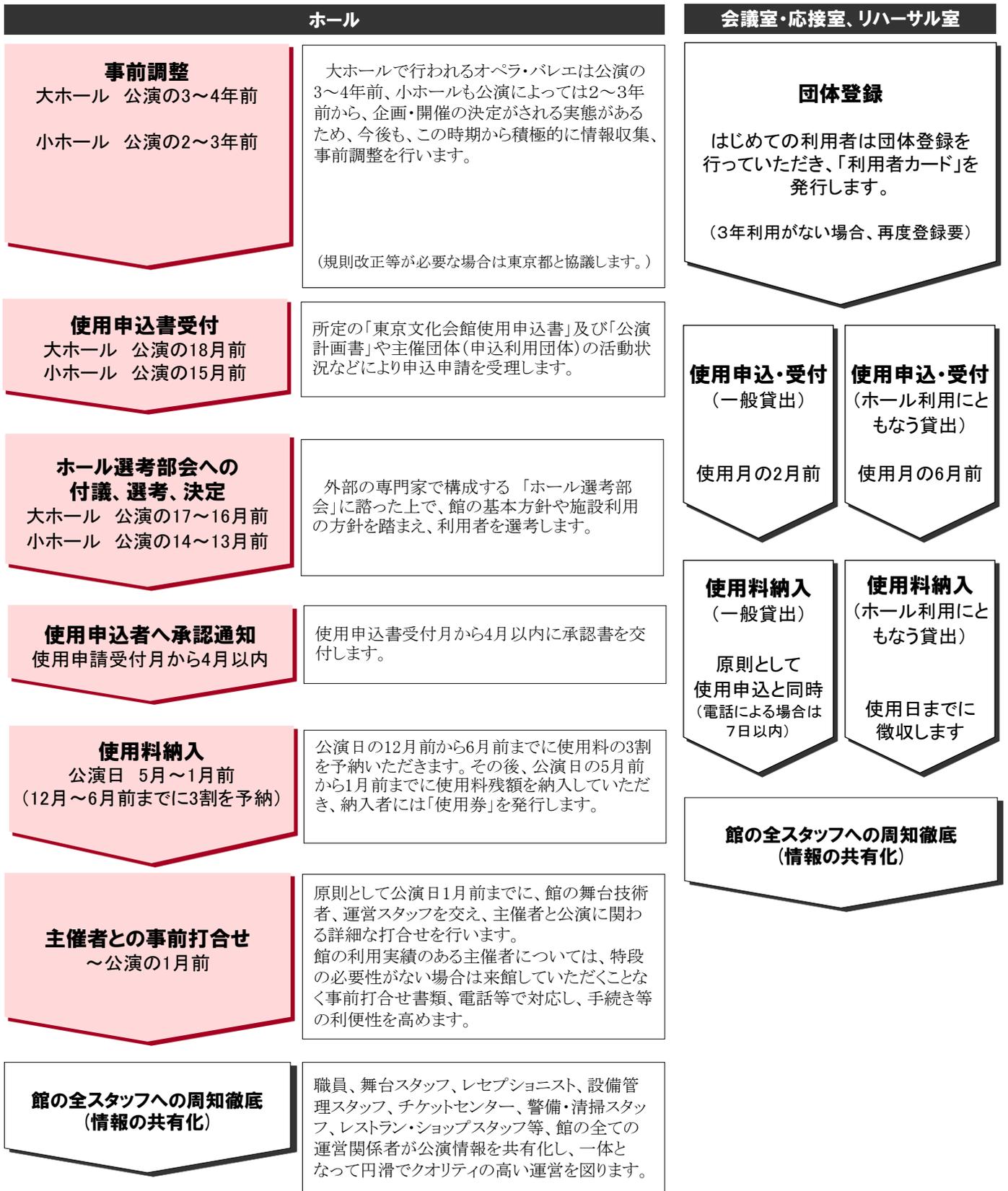
海外の大規模オペラ・バレエ等の利用日程の最終確定は2年～1年半程度前になされるが、公演の中止・縮小がなされた場合、すでに同種の公演やオーケストラの誘致が難しいタイミングになっている実態がある。**高水準の施設稼働を維持していくため、ポップス等、新たなジャンルへの営業活動、顧客開拓を検討**していきます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 2 施設の利用について
(2) 使用申請及び使用承認の仕組み

各施設の使用申請及び使用承認については、前述の通り、公正性と透明性の確保が重要であると考えております。私たちは以下のようなフローで使用申請及び使用承認業務を行ってまいります。



事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 2 施設の利用について (3) 利用料金

1. 利用料金の設定の考え方 ～ 消費税引き上げへの対応 ～

利用料金は、民間ホールと比較しつつも、公立の公共ホールであることを考慮した水準に設定すべきものと考えます。平成18年度改定以降、現行料金を継続していますが、消費税率は26年4月に5%から8%へ引き上げられ、29年4月に10%への引上げが予定されています。**消費税率の変更に伴う料金への反映について、今後東京都と協議してまいります。**

料金体系や料金区分については、現行の方式が主催者の理解を得て定着しているため、今後も次のとおり設定します。

ホールの利用料金

芸術文化団体と芸術文化団体以外の2種類の料金体系を設けます。また、仕込みや撤収、リハーサル時の使用については、主催者の負担軽減の観点から引き続き半額料金とします。楽屋、リハーサル室等についても現行どおりとします。

会議室の利用料金

現行の料金体系を継続しますが、館の使命に照らし、①大小ホール使用に伴う利用、②学術・芸術・文化に関する目的での利用、③その他、の順に優先して申し込みを受け付けます。

利用区分

様々な利用方法を可能とするため、現行どおり午前、午後、夜間と全日の利用料金を設定します。

2. 利用料金の減額、免除の考え方

学校教育、若手芸術家の支援等の観点から、東京文化会館及び東京芸術劇場条例施行規則(以下「規則」という。)に基づき、当グループが定める利用料金要綱に基づく減額または免除を行います。

- | | |
|---|----------|
| (1) 官公署が直接公共のために大ホール及び小ホール(以下「ホール」という。)を使用するとき。
なお、外郭団体は官公署に含まない。 | 25%減額 |
| (2) 都内の小学校、中学校及び高等学校並びにこれに準ずるものが、児童又は生徒のための音楽又は演劇等に関する事業を実施するためにホールを使用するとき。区市町村教育委員会又は東京都公立高等学校定通協会を含む。 | 50%減額 |
| (3) 若手芸術家の創造活動又は伝統文化活動を支援する事業で、知事が指定する事業を実施するために施設等を使用するとき。 | 免除 |
| (4) 館が主催する事業に使用する場合で、館の振興のために特に必要があると認められるとき。 | 50%減額 |
| (5) 規則第5条に規定する団体が、定期演奏会のためにホールを使用するとき。
例) 都民劇場、日本室内オーケストラ協議会、日本モーツァルト協会、東京音協等 | 15%減額 |
| (6) 規則第6条に規定する団体が、ホール及びリハーサル室を使用するとき。
例) 都響 | 15%減額 |
| (7) 前号に掲げる場合の他、館長が特に必要があると認めるとき。 | 館長が認める割合 |

3. キャンセルの徴収

現在、ホールを使用する日の5月前以降に使用を取消す場合は、全額利用料金を徴収、12月前から6月前までに取消す場合は、予納金(利用料金の30%)をお支払いいただいております。安易な利用申込みを防止し、ホールの高い稼働率を維持していくため、今後もこの取り扱いを継続します。



事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

東京文化会館利用料金表

単位/円

◆大ホール

使用時間区分 利用団体別区分 (入場料金の最高額)		平日				休日			
		午前	午後	夜間	全日	午前	午後	夜間	全日
		9:00～ 12:00	13:00～ 17:00	18:00～ 22:00	9:00～ 22:00	9:00～ 12:00	13:00～ 17:00	18:00～ 22:00	9:00～ 22:00
芸術文化団体等	入場料の額が 10,000円以下	215,000	431,000	540,000	1,080,000	229,000	459,000	574,000	1,148,000
	入場料の額が10,000 円を超え、 30,000円以下	230,000	461,000	576,000	1,154,000	247,000	494,000	618,000	1,236,000
	入場料の額が 30,000円を超えるとき	254,000	509,000	637,000	1,274,000	275,000	550,000	687,000	1,375,000
芸術文化団体等 以外	入場料の額が 10,000円以下	196,000	395,000	494,000	989,000	208,000	417,000	522,000	1,046,000
	入場料の額が10,000 円を超え、 30,000円以下	209,000	420,000	526,000	1,052,000	223,000	446,000	557,000	1,116,000
	入場料の額が 30,000円を超えるとき	230,000	461,000	576,000	1,154,000	247,000	494,000	618,000	1,236,000

◆小ホール

区分	午前	午後	夜間	全日
	9:00～ 12:00	13:00～ 17:00	18:00～ 22:00	9:00～ 22:00
平日	58,000	118,000	147,000	296,000
休日	61,000	124,000	155,000	312,000

◆楽屋・個室

室名	午前	午後	夜間	全日
大ホール楽屋1	1,500	3,100	3,900	7,800
大ホール楽屋2	2,000	4,100	5,300	10,600
大ホール楽屋3	1,500	3,200	4,100	8,300
大ホール楽屋4	1,100	2,400	3,100	6,300
大ホール楽屋5	1,300	2,600	3,200	6,600
大ホール楽屋6	1,100	2,400	3,100	6,300
大ホール楽屋7	1,300	2,700	3,500	7,000
大ホール個室1	700	1,600	2,200	4,400
大ホール個室2～5	700	1,500	1,900	3,900
大ホール個室6	900	1,800	2,300	4,600
小ホール楽屋	700	1,600	2,000	4,200
小ホール個室	600	1,400	1,800	3,700

◆ロビー・エントランスホールその他の施設

(規則で定める施設又は部分を除く)	全日
	169円/㎡

◆会議室・応接室

室名	午前	午後	夜間	全日
	9:00～ 12:00	13:00～ 17:00	18:00～ 22:00	9:00～ 22:00
大会議室	5,900	11,800	14,700	29,500
中会議室1	3,900	7,900	9,800	19,700
中会議室2	3,600	7,300	9,200	18,400
小会議室1	2,900	5,900	7,400	14,800
小会議室2	1,700	3,400	4,400	8,900
応接室1～3	1,000	2,100	2,600	5,300

◆リハーサル室

室名	午前	午後	夜間	全日
大リハーサル室	12,100	25,300	31,900	63,800
中リハーサル室1(A)	4,500	9,000	11,200	22,500
中リハーサル室2(B)	2,200	4,500	5,500	11,200
小リハーサル室1	1,100	2,300	2,900	5,900
小リハーサル室2～4	700	1,500	1,900	4,000
小リハーサル室5	1,100	2,300	2,900	5,800

◆中継室

室名	午前	午後	夜間	全日
大ホール中継室	10,000	21,000	26,000	53,000
小ホール中継室	6,200	12,000	15,000	31,000

提案課題3【事業に関する業務】 2 施設の利用について (4) 舞台運営業務

1. 実施方針

東京文化会館では、これまで、「**NOと言わない舞台管理**」を目標に掲げ、演出要望に対し、長年培った経験や技術力を生かし、創造性と安全性を確保することをモットーに、テクニカルサイドから公演を支え、利用者や外部スタッフからの信頼を得るとともに、無事故で公演を成功させてきました。

コンソーシアム解消にあたり、そうした信頼を失うことのないよう、組織体制的にも劇場事務所に**舞台管理の要を担うポストを設け**、経験豊富な舞台技術専門職員を配置します。自主事業、国内実演家団体の公演サポートは勿論、海外からの招聘公演に伴う安全基準や機構設備等の違いに対し、テクニカル上の調整や**舞台運営事業者**への指示指導を適切に行い、**舞台芸術の創造的なサポートと舞台における安全性の確保の両立、無事故で公演を成功させるよう努めます。**

さらに東京芸術劇場舞台管理職員と技術連携及び協力関係を構築することで、技術研修会等の共同企画など、技術の向上、人材育成を目指します。

2. 円滑な運営体制の確保

(1) 舞台技術専門職員の配置

【舞台技術業務】

舞台技術の専門職員を配置することで、伝統ある文化会館をさらに創造性のある劇場・音楽堂としての技術運営ができるよう努めます。まずは時代の要請に沿った劇場図面等のデータ整備、舞台備品・設備の選定・提案などを含め、適正な舞台技術予算の管理を実践します。また舞台機構・設備の日常的な課題への迅速・適切な対応、維持管理、中長期的なメンテナンス計画の策定を劇場の管理・運営者の立場で適切に調整してまいります。

【舞台技術運営と管理】

オリジナルでクリエイティブな事業を展開する自主公演においては、企画立案段階から技術的な検証に関わり、国内外のカンパニースタッフやプランナー、舞台監督等との技術調整を図り、安全で円滑な公演が行えるような技術運営に努めます。また、多数のリサイタルや室内楽においては、デザインなど技術進行にも関わって創造スタッフとしても携わるようにします。

貸館公演においては、安全と確実な技術サービスの提供を念頭に、知識と経験をもとに、事前打合せの段階で詳細にヒアリングし、上演に向けた技術相談のほか適正なホール使用形態、無理のないスケジュールの確認や提案をしてまいります。また舞台管理職員および舞台運営事業者との齟齬なく、コミュニケーションが滞らぬよう適宜技術会議等を開催して課題等の解決をすばやく行うよう努めます。

今日まで演出家や舞台監督から様々な相談や要望に応え、公演を無事故で成功させ、築き上げてきた利用者との信頼関係を今後も維持・向上してまいります。

< 主な業務内容 >

- ① 舞台に関する図面、備品等のデータ整備
- ② 舞台備品、消耗品、舞台工具等の整備計画、舞台予算の管理
- ③ 舞台設備（舞台機構、照明設備、音響設備）、装置、機器の保守管理、中長期の設備改善計画
- ④ 舞台装置・機器・道具等の収納、製作に係る調整
- ⑤ 自主事業等に係る技術調整、舞台運営・補助
- ⑥ 利用者との技術相談、舞台運営事業者との技術調整
- ⑦ 技術研修等の計画、技術系インターシップ等人材育成の調整 等

(2) 舞台運営業務の委託

東京文化会館の舞台運営を支える舞台技術スタッフには、海外のオペラやバレエ公演等にも対応可能な高度な技術と豊富な知識・経験が欠かせません。舞台周辺全般にわたって安全確保を最優先とする管理運営を求めます。業務委託に当たっては、「企画コンペ方式」により相応しい運営事業者を決定いたします。

< 舞台運営事業者の業務内容 >

- ① 施設利用者との技術的打合せ、打合せ資料作成、助言、および搬入、設営、撤去、復元時の技術サポート業務
- ② 大ホール、小ホールの舞台機構、照明設備、音響・通信設備の操作および管理
- ③ 音響反射板、オーケストラピット、可動客席等の設営、復帰作業
- ④ 主催事業等における舞台製作過程および公演に関わる舞台技術操作
- ⑤ 設備・装置・機器の日常的な保守管理（清掃、点検、軽微な修理）及び専門業者による保守点検への協力
- ⑥ その他舞台運営に関連する業務

提案課題3 [事業に関する業務] 2 施設の利用について (4) 舞台運営業務

(3) 委託業者の履行確認

舞台運営事業者の履行確認については、専門職員の指導・監督のもと、以下の履行確認を行い、劇場の安全確保、維持管理を行ってまいります。

- ① 業務日誌による報告
大ホール、小ホールで行われた舞台管理運営状況を把握するため、舞台運営事業者へは業務終了後に日誌を提出するよう義務付けていきます。
- ② 故障時・緊急時の対応と報告
日常業務の中で各種機器や設備の作動状態を確認し、経年劣化や不具合を発見した場合は直ちに報告するよう徹底します。
また、不具合や故障時においては、「トラブル対応マニュアル」に則り、適切な対応を行えるようにするとともに記録として残し、マニュアルに加えていけるよう努めます。また緊急時にはホール職員とともに観客、出演者、スタッフの安全

(4) 日常・定期点検の実施

- ① 日常点検
舞台運営事業者による日常業務の中で確認する各種機器や設備の作動状態を専門職員が共有し、定期点検時の調整作業や修繕計画に反映します。
- ② 定期点検
点検対象項目と点検内容、実施時期などの計画を立て、舞台運営事業者の立会いのもと、専門業者による定期点検を実施します。大がかりな設備改修などが必要となる場合は、東京都へ報告、協議し、改修計画に反映してまいります。

専門職員と委託業者との連携により、より安全で的確な舞台管理を実現します。

(5) 舞台技術水準の維持・向上

舞台での作業では多くの危険が伴うため、舞台運営業務でヒヤリとした経験や他館での事故事例なども記載した「安全マニュアル」を作成し、舞台運営事業者とも共有して安全管理の教育指導を行うとともに、創造現場での実践力、経験値が安全判断能力の向上にもつながるため、積極的に現場をサポートできる体制を整えていきます。

また、全国公立文化施設協会が実施する舞台技術者講習等への参加、東京芸術劇場舞台専門職員との技術交流、連携を通じて、多彩な舞台芸術に携わる機会を創出し、技術の研鑽に繋がります。

3. 安全の確保とトラブル対応

【安全の確認】

「最高の舞台」を運営・管理するためには安全管理が重要です。

打合せの段階から利用者とコミュニケーションを図り、確実な要望把握をするとともに、無理のないスケジュールで搬入～仕込み～リハーサル～本番～撤去(バラシ)～搬出までが組み立てられているかを確認し適切な助言を行います。

また、セリやバトン、吊り物の操作の際は、必ず監視要員を配置するなどあらゆる場面で細心の注意とチェックを心がけ、日常的に安全確保に努めます。

こうした実績によって長年にわたり築きあげてきた利用者側の舞台スタッフとの信頼関係を大切にし、これからの事故が起きないように取り組んでいきます。

【トラブル対応】

自然災害や突発的な事故等の生きた舞台芸術にはつきもののトラブル等、多様な事項に対応できるようマニュアルを定め、円滑な公演進行に努めます。

《事故未然防止のための対策リスト》

安全マニュアルの作成	東京文化会館に適合した安全マニュアルの作成
情報共有	舞台スタッフ及び館内関係部署との十分な打ち合わせと必要事項の伝達徹底
余裕ある計画	集中力・注意力が途切れない無理のない計画の指導
整理整頓	作業環境の整理整頓
目視・声かけの安全確認	危険作業の際の複数による目視・声かけの徹底
原因究明と対策	事故の大小にかかわらず、原因究明と対応策を実施

提案課題3【事業に関する業務】3 調査研究の取組について

(1) 調査研究の取組

1. 実施方針

東京文化会館で調査・研究機能を有するのが音楽資料室です。音楽資料室では、クラシック音楽を中心にオペラ・バレエなどの舞台芸術や邦楽、民族音楽などの資料収集を行うとともに、収集した資料を提供することにより、都民の調査・研究活動を支援していきます。同時に、大小ホールでの公演に合わせて過去の公演プログラムやアーティストの関連書籍をホワイエに展示したり、音楽資料に関連した講演会を開催したりするなど、所蔵資料を用いた情報発信にも努めてまいります。

また、劇場法に則り、自主事業の展開に欠かすことのできない創造性・発信性・独自性・顧客満足などのために調査・研究に努め、時代のニーズを掌握し、企画や事業展開に活用してまいります。

2. 音楽資料室の運営方針

資料、人、場所の三つの柱で過去から未来へ

音楽資料室は昭和36年の開館以来、全国でもめずらしい音楽専門図書館として活動をおこなってまいりました。クラシック音楽を中心として、オペラ・バレエなどの舞台芸術や邦楽、民族音楽を対象として資料を収集し、専門家や学生、一般の音楽愛好家から高い評価を得ています。

近年はデジタル技術を導入し、自宅から資料目録へアクセスしたり、開館以来の公演情報を入手したりすることも可能となり、非来館者へのサービスも充実させています。

国立情報学研究所の総合目録データベース事業に参加しており、全国の大学や公共図書館と連携し、全国レベルでの文化の発展に貢献しています。

<資料収集の基本方針>

- ・クラシック音楽の楽譜、音源(CD・LP)は、学問的価値の高いオリジナルのものを中心に収集する
- ・図書、雑誌は、音楽に関する幅広い分野から、研究の参考となるものを中心に収集する
- ・映像は舞台芸術(オペラ・バレエ)を中心に収集する
- ・東京文化会館の公演プログラムは、他館では収集できない独自の貴重資料として、正副2点ずつ全公演を収集する(公演記録を含む)

(1) 半世紀以上にわたり収集した貴重な資料を受け継ぎ、生かし、次の世代に継承します

クラシック音楽関係の音源(CD・LP)、楽譜、映像は充実した蔵書を誇っています。昭和期に収集したLPレコード3万枚や高価な全集楽譜等も他の図書館では利用できない資料として、多くの専門家に評価されています。

吹奏楽や合唱の資料収集にも力を入れており、次代を担う若い世代の音楽活動を支えます。

また一般に流通していない東京文化会館開館以来の公演プログラムを全て保存しており、現代日本の音楽文化の軌跡を語る上で欠くことのできない貴重な資料となっています。今後、資料の増加に伴う収蔵スペースの不足に対し収蔵場所の確保や楽譜・プログラムなど紙資料の劣化への対応など、かけがえのない貴重な資料を次世代に継承するため、必要な対応を都とともに図ってまいります。

(2) 中学生からシニアまで、学びの心を支えます

生涯学習の拠点の機能を持つ「場としての図書館」が求められている今日、視聴と閲覧それぞれのエリアを工夫し、快適な空間を提供します。

学生や若い世代の認知度を高め、パソコンやタブレットを利用して、音楽データベースや、現在世界中の図書館や団体が進めている楽譜アーカイブの利用を可能にします。

シニア向けサービスとして、パソコンを使用しない利用者にも配慮し、それぞれのニーズに合った利用方法を提案します。経験を積み音楽資料に精通した職員を配置し、研究や学習を支援します。

(3) 音楽を愛するすべての人に

所蔵している資料をデジタル化し公開することで、いつでもどこからでもアクセス可能となり、芸術文化の発展に貢献することが可能となります。著作権保護期間満了の雑誌や寄贈写真などのデジタル化を検討します。また、現在情報のみの提供となっている東京文化会館の公演プログラムをデジタル化し公開することを計画し、日本のクラシック音楽受容の基礎資料としての活用を図ります。

現在公開中のインターネット目録を充実させ、一曲ごとの検索や多言語対応によりきめ細かい情報提供を行います。

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 3 調査研究の取組について (2) 音楽資料室の運営

1. 運営体制

(1) 開室日及び時間

火曜日～土曜日 13:00～20:00
日、祝日 13:00～17:00

※ 試行により、曜日及び時間ごとの利用者数や利用目的などを調査し、現行の開室日及び時間について必要な検討・見直しを行っていきます。

(2) 休室日

毎週月曜日、館保守日、特別整理期間、年末年始
※ 図書整理等のため休室日を設けます。

(3) 運営体制

常勤、非常勤司書

司書は司書資格を有する者、または音楽専門教育を履修したものとし、専門性の高いサービスを行います。

2. 提供するサービス

(1) 来館者へのサービス

半世紀に渡り収集し保存した資料を、利用者の求めに応じて迅速に提供し、音楽関係者、学生、一般の利用者など幅広いニーズに応えます。

①レファレンスサービス

利用方法、資料の検索から音楽に関する専門的な質問まで、資料に精通した専門の職員が利用の手伝いを行います。

②パート譜の貸出

都内で活動する中学、高校、大学や地域、職場などのアマチュアオーケストラ、吹奏楽団にパート譜の貸出を行います。

③コピーサービス

教育、文化芸術の発展に与するため、権利者の権利に配慮しながらコピーサービスを行います。著作権法を遵守するための情報収集や職員教育を積極的に行います。

(2) 非来館者へのサービス

- ① インターネットを利用した目録検索サービスのデータをさらに充実させ、利用者の利便性を高めます。
- ② 館報、ウェブサイト、SNSを通してクラシック音楽のポータルサイトとしての情報発信を行います。
- ③ アマチュアの演奏家や団体を支援するため、チラシの掲示・配布などに協力します。

(3) 音楽資料の収集・提供

- ① クラシック音楽、民族音楽、邦楽に関する資料(図書、雑誌、楽譜、音源、映像)の保存、充実につとめます。
- ② 独自資料である東京文化会館の全公演プログラムの保存、充実につとめます。
- ③ 著作権の消滅した雑誌や新聞記事のデジタル・アーカイブ化を検討します。
- ④ デジタル化した辻修氏寄贈の写真の利用をはかり、日本洋楽史の研究に貢献します。

(4) 他の機関との連携協力

- ・ 国立情報学研究所の総合目録データベース事業への参加を継続し、大学図書館との連携・協力を行います。
- ・ 国立国会図書館レファレンス協同データベースで当室のレファレンス事例を公開し、全国の図書館と協力体制を構築します。
- ・ 全国の公共図書館からの音楽資料に関する照会に応じるなど、専門図書館として他館に協力します。

3. 今後の取組

- ・ 貴重な音楽資料を持つ音楽資料室をより多くの都民の方にご利用いただくため、音楽に関連した講演会の実施など、音楽資料室の認知度を高める取組を実施します。
- ・ 所蔵資料の電子化を図り、来室しなくても音楽資料が閲覧できるよう、都民の調査研究活動を支援する環境を整えます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団